

令和4年度（2022年度）

教職課程

自己点検評価報告書

四天王寺大学

令和5年9月

四天王寺大学 教職課程認定学部・学科一覧

学部	学科	免許状の種類及び教科
人文社会学部	日本学科	中学校教諭一種免許状（国語） 高等学校教諭一種免許状（国語） 高等学校教諭一種免許状（書道）
	国際キャリア学科	中学校教諭一種免許状（英語） 高等学校教諭一種免許状（英語）
	社会学科	中学校教諭一種免許状（社会） 高等学校教諭一種免許状（地理歴史） 高等学校教諭一種免許状（公民）
	人間福祉学科	高等学校教諭一種免許状（公民） 高等学校教諭一種免許状（福祉）
教育学部	教育学科	幼稚園教諭一種免許状 小学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状（英語） 高等学校教諭一種免許状（英語） 中学校教諭一種免許状（数学） 高等学校教諭一種免許状（数学） 特別支援学校教諭一種免許状（知・肢・病） 養護教諭一種免許状
看護学部	看護学科	養護教諭一種免許状

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	3
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	3
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	6
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	10
III	総合評価	14
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	15
V	現況基礎データ一覧	16

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

(1) 大学名：四天王寺大学

(2) 学部名：人文社会学部（日本学科・国際キャリア学科・社会学科・人間福祉学科）

教育学部（教育学科）

看護学部（看護学科）

(3) 所在地：大阪府羽曳野市学園前3丁目2-1

(4) 学生数及び教職課程を担当する専任教員数（令和4年5月1日現在）

①学生数

学部	学科	教職課程履修学生数	全体学生数
人文社会学部	日本学科	154名	403名
	国際キャリア学科	30名	333名
	社会学科	121名	728名
	人間福祉学科	3名	291名
教育学部	教育学科	1,059名	1,065名
看護学部	看護学科	72名	337名

※各学科1～4年次生の教職課程科目の履修者合計

②教員数

学部	学科	教職課程科目担当専任教員数 (教職・教科とも)	全体教員数
人文社会学部	日本学科	6名	11名
	国際キャリア学科	5名	10名
	社会学科	10名	16名
	人間福祉学科	8名	9名
教育学部	教育学科	34名	44名
看護学部	看護学科	11名	28名

2 特色

本学は聖徳太子が敬田院を設立された精神、すなわち宗教的情操教育によって人格の陶冶を図り、広範にして深い知識と高い技術・技能を教授することによって人格の形成に資することを目的として、開学以来、社会に有為な人材の育成に努めている。従って、教員養成に対する理念は、この「建学の精神」に基づいて、地域社会の学術・教育・文化・福祉などの振興と発展に寄与することである。

これに基づいて、本学は、教員に求められる基本的な資質能力を養い、近年の急激に変化、発展する社会の中で、教員として直面する新たな事態に対処できる能力を有する教員を養成することを目標としている。

また、上記目標を達成するための計画として、いずれの免許状取得においても、まず本学の「建学の精神」である宗教的情操教育と人権に関する教育を行い、人格の陶冶を図る基礎教育科目の学修が必要となる。この学修により、「和の精神」を体得し、子どもたちの生命と心を護り、愛情をもって教育できる人間性豊かな教師の育成を目指している。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

本学の教職課程教育の目的・目標は「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて設定しており、「教員養成の目標及びめざす教員像」として履修要覧や本学公式ホームページに明示し、学内の教職員及び学生に周知している。さらに、教職員間で教員養成の目標を共有し、全学的な取り組みを展開するために、教育研究評議会、学部教授会や教務委員会、教員養成カリキュラム委員会、学科会議などにおいて、教育内容・教育方法を検討し、教員養成に関わる教育の質のさらなる向上を図っている。また、教職教育推進センターを設置し、教職員による学生の教育実践力の向上、インターシップ・教育実習等の運営、教員採用試験合格に向けた教職支援等を行っている。【資料Ⅱ-1-1-1】

〔長所・特色〕

目標を達成するための計画として、まず本学の建学の精神である宗教的情操教育と人権に関する教育を行い、人格の陶冶を図る基礎教育科目を学修する。次に教員として必要となる豊かな教養を身につけるとともに、それを基盤として科学的な観察力と判断力、国際的な感覚を修得する共通教育科目を学修、そしてさらに専門教育科目における必要な科目の履修により、各学校種・教科の教員に求められる高度な学識と豊かな知識を養う。【資料Ⅱ-1-1-2】

〔取り組み上の課題〕

4年間のカリキュラム全体だけではなく、教職課程教育に焦点を当てた学修成果の可視化をさらに図っていく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

【資料Ⅱ-1-1-1】四天王寺大学公式 HP（教育職員免許法施行規則第 22 条の 6 に基づく情報の公表：教員養成の質の向上に係る取り組み）

【資料Ⅱ-1-1-2】四天王寺大学公式 HP（教育職員免許法施行規則第 22 条の 6 に基づく情報の公表：教員養成の目標とそのための計画）

基準項目 1 - 2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

本学では、文部科学省「教職課程認定基準」に定められた必要教職専任教員数を充足しており、研究者教員だけでなく、学校現場等での実務経験を持つ専任教員が適切に配置されている。

また、教員養成に関わる全学的な委員会組織として、教職課程の運営と質向上を目的とする教員養成カリキュラム委員会（委員長：教務部長）と、学生が教育職に就くための活動を支援することを目的とする教職支援委員会（委員長：教職教育推進センター長）を設置している。いずれの委員会も教職課程を設置する学部・学科の教員、教職に関する科目の担当教員および教務課長、教職教育推進課長等で構成されており、事務職員と学部・学科の教職課程担当教員で役割分担をする協働的な体制を構築している。【資料Ⅱ-1-2-1】【資料Ⅱ-1-2-2】

ICT 教育環境については、ICT アクティブラーニング教室および ICT 模擬授業教室において、タブレットや大型液晶ディスプレイの電子黒板等を活用した授業を実施しており、ICT に強い教員の養成に取り組んでいる。また、学内のほぼ全域において Wi-Fi を完備し、BYOD に対応している。【資料Ⅱ-1-2-5】

教員養成に関する情報公開としては、公式ホームページにて「教育職員免許法施行規則第 22 条の 6 に基づく情報の公表」をしており、教員養成の目標・計画、教員情報、教員採用試験合格状況等を公開している。【資料Ⅱ-1-2-6】 また、全学的な教育のみならず教職課程教育の質的向上のために、毎学期実施している授業評価アンケートの結果を公式ホームページにて公開し、同時に教員が授業改善を図れるよう学生にフィードバックを行っている。【資料Ⅱ-1-2-3】【資料Ⅱ-1-2-4】

〔長所・特色〕

本学の教員養成目標を共有し、全学的な取り組みを展開するために、教員養成カリキュラム委員会や教務委員会、学部教授会、学科会議等により、教育内容・教育方法を検討し、教員養成に関わる教育の質のさらなる向上を図っている。また、教

職教育推進センターにおいて、教職経験の豊富な専任教員を中心に学生の教育実践力の向上、インターシップ・教育実習等の運営、教員採用試験合格に向けた教職支援等を行っている。

〔取り組み上の課題〕

教育職員免許法の改正や本学における教員養成カリキュラムの見直し等に伴い、学生の入学年度によって異なる履修指導が必要となる場合がある。現在、「履修要覧」に説明を掲載しているが、全学で共有する教職課程全般の手引き等の作成を検討し、教職員のさらなる連携と指導内容の共有を強化する。

<根拠となる資料・データ等>

- 【資料Ⅱ-1-2-1】 四天王寺大学・四天王寺大学大学院・四天王寺大学短期大学部
教員養成カリキュラム委員会規程
- 【資料Ⅱ-1-2-2】 四天王寺大学・四天王寺大学大学院・四天王寺大学短期大学部
教職支援委員会規程
- 【資料Ⅱ-1-2-3】 令和4年度夏学期授業評価アンケート結果
- 【資料Ⅱ-1-2-4】 令和4年度冬学期授業評価アンケート結果
- 【資料Ⅱ-1-2-5】 四天王寺大学公式HP (ICT 模擬授業教室、ICT アクティブ・ラーニング教室)
- 【資料Ⅱ-1-2-6】 四天王寺大学公式HP (教育職員免許法施行規則第22条の6に基づく情報の公表)

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

本学における「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程の編成・実施の方針」を踏まえた「教員養成の目標及びめざす教員像」を公式ホームページおよび履修要覧等において学内外に向けて発信し、教職課程を設置する教育学部、人文社会学部、看護学部の「入学者受入れの方針」に基づいた学生募集および選考を実施している。

【資料Ⅱ-2-1-1】【資料Ⅱ-2-1-2】

教育学部においては、4コース制となっており、各コースに入学定員を定め適切な規模の免許履修学生数を維持し、看護学部については、養護教諭コースを選択できる定員は20人程度として学内選抜試験を行うことで、適切な規模の免許履修学生数を維持している。【資料Ⅱ-2-1-3】

なお、教職指導については、学生は2セメスター・4セメスター・6セメスター時や介護等体験・教育実習終了後に、振り返りから自己課題の気づきに繋げるため、ポータルサイトにある「履修カルテ」に自己評価や課題を入力している。また、8セメスターの「教職実践演習」の履修時には、担任教員が総合評価をしている。その際、教員として必要な資質能力が、どの程度形成されたか、また今後どのような学修が必要かを考えるための手がかりとして、「履修カルテ」が活かされ、学生の適性や資質に応じた教職指導を行っている。【資料Ⅱ-2-1-4】

〔長所・特色〕

本学では、教職課程を有する各学科、教職教育推進センター、教務部が連携をとり、学生への教職ガイダンスや教員採用試験対策、教員として活躍する卒業生との交流の支援、加えて窓口においても必要に合わせた履修指導を行っている。また、教員に求められる専門知識のみならず、本学の「建学の精神」である宗教的情操教育と人権に関する教育を行い、人格の陶冶を図る基礎教育科目の履修を必須としており、子どもたちの生命と心を護り、愛情をもって教育できる人間性豊かな教師の育成を目指している。

〔取り組み上の課題〕

18歳人口の減少に加え、教員の待遇などの社会問題により、学生募集の段階での教員希望者が減少傾向にあるため、今後、教員志望学生の確保が厳しくなっていくことが予想される。入学後においては、人文社会学部や看護学部では教員免許取得のために卒業に必要な単位とは別に多くの単位を修得することが必要となる。また、教育学部ではインターンシップや実習での経験から、一部、進路変更をする学生もいるため、教職に関する魅力や、やりがいを学生が実感できるようなより一層の支援内容の充実が求められる。

＜根拠となる資料・データ等＞

- 【資料Ⅱ-2-1-1】 四天王寺大学公式 HP（教育研究上の目的・3つのポリシー等）
令和4年度履修要覧
- 【資料Ⅱ-2-1-2】 四天王寺大学公式 HP（教員養成の目標及びめざす教員像）
令和4年度履修要覧
- 【資料Ⅱ-2-1-3】 入試ガイド、入学試験要項
- 【資料Ⅱ-2-1-4】 教職課程・教育実習等の手引き（教育学部）（人文社会学部・看護学部）

基準項目2-2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

教職教育推進センターが中心となり、各学部・学科の教職支援委員と協力し、教育実習等の運営や教員採用試験対策等を行うことで、教員をめざす学生をサポートしている。

各学年での教職進路調査や3年次生・4年次生への教員採用試験受験状況調査を実施することで、教職志望度や意欲を把握している。【資料Ⅱ-2-2-1】併せて、各種ガイダンスや講座実施時に行うアンケートにより、学生のニーズを把握し、講座内容等のブラッシュアップに活かしている。【資料Ⅱ-2-2-2】

また、教職ガイダンスや公式ホームページにおいて、教員採用試験情報（試験日程、大学推薦実施自治体、地方自治体の関西エリア受験会場）や先輩の受験報告書等の、教員をめざす学生にとって有益な情報をタイムリーに提供している。【資料Ⅱ-2-2-3】

〔長所・特色〕

教職教育推進センターには、センター長と副センター長、教員6名（教育学部教員を兼任）、職員7名が常駐しており、学生の教員採用試験対策の面接練習や相談・質問等にいつでも対応できる体制を整えている。

なお、常駐教員は、中学校・高等学校の元教員かつ教育学部の授業科目である「教職研究Ⅰ・Ⅱ」、「教職演習Ⅰ・Ⅱ」、「教科総合演習Ⅰ・Ⅱ」等の担当者でもあるため、知識・技能の習得に終わることなく、教育に関する国の動向や教育現場での現状と取組みを理論的な学びに繋げ、より実践的な知見を重視した指導を行っている。

また、教員採用試験対策におけるガイダンスや各自治体による説明会ならびに各種対策講座の実施、インターンシップや教育実習・保育実習等のサポート、受験校種や採用試験の受験地ごとに設けられる学生の自主勉強会の指導等を行うことで、教員免許取得者数及び教員就職率を高めている。【資料Ⅱ-2-2-4】教員採用試験直前には、現役教員として活躍する卒業生複数名を招聘してセミナーを実施し、学生が、学校現場の現状や教職の魅力ならびに教員採用試験対策等を学ぶ機会を設けている。教員採用試験受験対象の学生には、センター教員による面接試験練習等の指導を継続的に実施している。さらに、教職に就いている卒業生からの面接試験練習も実施しており、学生から高い満足度を得ている。また、本学を卒業後に教員採用試験を受験する者に対しても本人からの要望があれば、教職教育推進センターの教員が、積極的に面接指導はじめ助言等を行っている。

〔取り組み上の課題〕

インターンシップや教育実習における現場体験は、教員をめざす学生にとって実践的指導力の基礎を身につける非常に貴重な経験である。一方で、そういった経験をすることで、一部、自身の教職への適性や進路を見直す学生がいる。このような状況に対し、授業やガイダンスなどにおいて、学校現場の状況を踏まえつつ教育職の魅力が多角的に伝えていくことが求められる。

<根拠となる資料・データ等>

【資料Ⅱ-2-2-1】 教員採用試験受験状況調査、教職進路状況調査

【資料Ⅱ-2-2-2】 教員採用試験春期集中講座 アンケート結果
教員採用試験第一回模擬試験 報告書

【資料Ⅱ-2-2-3】 四天王寺大学学内 HP（教職教育推進センター）

【資料Ⅱ-2-2-4】 教職教育推進センターリーフレット

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

教育実習の参加要件として、本学の建学の精神を学ぶ基礎教育科目「和の精神Ⅰ・Ⅱ」の修得を必須とすることで、取得希望免許に関する専門知識だけではなく、「和の精神」に基づいた日常の心構えと態度を身につけた人間性豊かな教員の育成を目指している。【資料Ⅱ-3-1-1】また、教育学部においては、教育課程に教職課程が包含されているため、学科科目において系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成できている。

また、2021年度入学生よりノートパソコンを必携とし、1年次よりICT機器の操作を学ぶ科目「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」、2年次には「データ収集分析」、「プログラミング」、「情報システム」の科目を配当している。教育学部においては「教育学特殊講義 プログラミング教育Ⅰ・Ⅱ」を配当し、プログラミング教育の実践的能力を養うと共に、プログラミング教育を先駆的に行ってきた外部講師により実践事例を学べる機会を提供している。また、教職課程科目である「教育の方法及び技術」、「各教科の指導法」科目において、学校教育におけるICT機器の活用能力を育成している。

さらに、大学全体の「教育課程編成・実施の方針」として、本学入学前までの教育の中で行われてきた「主体的・対話的で深い学び」を深化させるために、アクティブ・ラーニング等を取り入れた授業を実施している。単なる知識・技能の伝達に終わることなく、主体的に授業に参加し、自己内対話を深めるとともに、対話の中で学びの共有化と深化を目指している。さらに、教職課程を設置する人文社会学部、教育学部、看護学部の「教育課程編成・実施の方針」においてもアクティブ・ラーニングを取り入れることを明記し、これを教職課程科目において推進している。

【資料Ⅱ-3-1-2】

教職課程シラバスにおいては、コアカリキュラムに対応した学修内容や授業方法、評価方法等を学生に明示しており、科目ごとに具体的な到達目標を設定している。

【資料Ⅱ-3-1-3】

教育実習については履修要件を設けており、専門知識の強化となる科目の修得に加えて、人文社会学部においては GPA 値を活用することより、基礎学力を高める仕組みを構築している。また、教育実習に向け、模擬授業の実施や相互批評による実践的な授業を行っている。

学生は、2 セメスター、4 セメスター、6 セメスター時や介護等体験、教育実習の終了後に、振り返りから自己課題の気づきに繋げるため、ポータルサイトにある「履修カルテ」に自己評価や課題を入力している。その蓄積を活かして自身の現状分析や担任教員による他者評価を活用することで、総まとめとなる「教職実践演習」において学生の適性或資質に応じた指導を行っている。

〔長所・特色〕

取得希望免許における専門知識の強化に加えて、教職課程においても、本学の建学の精神である「和の精神」を学ぶことによる人間性豊かな人材育成に注力している。

〔取り組み上の課題〕

教育学部以外の教職課程を有する学部においては、学科専門教育科目の履修系統図を作成しているに留まっているため、教職課程科目との系統性を学生へ提示する必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

【資料Ⅱ-3-1-1】 令和 4 年度 履修要覧

【資料Ⅱ-3-1-2】 2022 年度アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の割合

【資料Ⅱ-3-1-3】 シラバス照会

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

教育学部における教員志望の学生に対して「今、求められている資質能力」である実践的指導力につながる基礎的な資質能力を身に付けるべく、学校現場における継続した学びを可能とする「『教師力』養成システム」を平成 31 年度入学生より実

施している。

また、本学の位置する羽曳野市をはじめ近隣の教育委員会・自治体と包括協定を含む連携協定を締結しており、教育学部を中心に、教職課程を有する学部において、学校インターンシップや学生ボランティア活動等を行っている。

〔長所・特色〕

前述の教育学部の『『教師力』養成システム』においては、1年次（令和4年度207名）で学校体験として本学園系列の小・中学校における「ハロースクール」、2年次（令和4年度209名）には、1年間を通して毎週金曜日に終日、配属校での「インターンシップ」を実施する。続いて、3年次（令和4年度174名）には同じ学校で教育実習を行っている。本システムのメリットの一つとしては、2年次から継続した学びにより、子どもとの関係構築や教員とのコミュニケーション等、従来の教育実習の入り口部分がすでに成り立っている中で教育実習のスタートが可能であることが挙げられる。そのことから教員免許取得に向けた重要な取組みである教育実習がより充実したものとなり、実践的指導力獲得にむけた基礎づくりにつながっている。

〔取り組み上の課題〕

教員をめざす現役学生に対して、多様化している学校現場を重視する本学独自の教育学部『『教師力』養成システム』が今年度、完成年度を迎えた。本システムを経験した学生が教員採用試験を受験しており、教員として実践的指導力に長けた資質の向上が図られているかの検証が必要である。「いい先生」として学校教育活動に貢献できる人材づくりを本学教育学部のミッションとし、本システムのさらなる充実に向け取り組んでいく必要がある。

また、教育学部のみならず、人文社会学部および看護学部の教員を目指す現役学生においても、実践的指導力の基礎力養成に向けた取り組みを行う強化体制を整えていく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

【資料Ⅱ-3-2-1】四天王寺大学公式HP（教育学部 教育学科）

【資料Ⅱ-3-2-2】四天王寺大学公式HP（地域連携）

Ⅲ 総合評価

本学は、「建学の精神」に基づき、いずれの学校種・教科等の教員においてもそれぞれで培う専門性の育成に加えて、宗教的情操教育と人権に関する教育を通して「和の精神」を体得し、子どもたちの生命と心を護り、愛情をもって教育できる人間性豊かな教師の養成を目標としてきた。この目標は、学内の全学的な会議体から委員会や学部・学科組織、教職教育推進センター等を通じて教職員間で共有化され、教職課程教育カリキュラムの編成、実施とその評価、改善を通して本学の教職課程教育の質のさらなる向上を図ってきた。このことは例えば令和5年度教員採用試験の現役合格者数の多さにも如実に反映されていると考える。

今後の課題として、4年間の教職課程教育における学修の成果をより精緻に検証するため、本学ですでに学科カリキュラムで実施している各科目の成績評価状況等の教職課程科目での点検や、教職課程科目における履修系統図の作成（人文社会学部、看護学部）を行うことが挙げられる。また、本学では3学部6学科で教職課程を設置し、さらに入学年度によってそのカリキュラムが相違する面もあることから、教職課程のガイドラインを再検証し、教職課程の運用面や学生指導面などにおいて教職員間の共有化と連携をさらに強化していく必要がある。

教員というキャリアに向けての学生の育成や支援においては、各学年や実習等の終了時に履修カルテをもとに学生が省察をしたり、教職進路調査等を各学年で実施している。これらをもとにして、教職課程教員や教職教育推進センターは、教員を目指す上での各学生の資質や課題等に応じた指導を4年間かけて行っている。そして、教職課程カリキュラムは、アクティブ・ラーニング等の実施やICT機器の活用能力の形成を図る科目の設置等も含めて、教職課程のコアカリキュラムに依拠して編成している。また、教職教育推進センターは、学校や教育行政での経験が豊富な専任教員で構成されており、面接や模擬授業、受験自治体ごとの自主勉強会の指導など教員採用試験の合格に向けた支援を手厚く行っている。

他方で課題としては、教育学部では2年次から同一配属校でインターンシップと教育実習を2年間かけて行っているが、人文社会学部や看護学部においてもこ

のような実践的指導力の育成に向けた取り組みを強化していくことが必要である。また、教員の勤務実態や待遇等を知る中で教員志望を断念する学生もいる。教師という仕事の魅力とやりがいを学生が実感できるような取り組みを1年次から行うことも課題として挙げられる。

最後に、本学は今回の自己点検評価活動を通じて教職課程教育を適切に実施することができていると評価した。しかし、今回明らかになった課題を、教職課程を設置する学部学科、教員養成カリキュラム委員会、教職支援委員会だけでなく学内全体で共有し、その課題の改善、解消に向けた努力を不断に行っていくことによって本学の教職課程教育の質のさらなる向上を図っていきたい。

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

教員養成カリキュラム委員会において、教職課程における自己点検評価の実施に向けた作成スケジュール、点検項目等の確認を行い、教務部・教職教育推進センターを中心に教職課程自己点検評価報告書（案）を作成した。さらに、教職課程を有する学部（教育学部、人文社会学部、看護学部）において内容の確認および共有を図り、報告書原案に学部・学科の修正を反映させ、教員養成カリキュラム委員会にて審議し、最終案とした。その後、全学的な審議機関である教育研究評議会において承認を得て本学公式ホームページに公表した。

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人四天王寺学園					
大学・学部名 四天王寺大学 人文社会学部 教育学部 看護学部					
学科・コース名（必要な場合） 人文社会学部 日本学科 国際キャリア学科 社会学科 人間福祉学科 教育学部 教育学科 看護学部 看護学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数					869名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					762名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					290名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					162名
⑤ のうち、正規採用者数					91名
④ のうち、臨時的任用者数					71名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	54名	28名	24名	12名	—
相談員・支援員など専門職員数：0名					